報・連・相の重要性を伝える

関東鋲螺釘工業協同組合と東部ファスナー協同組合

ビジネスマナー再確認の機会創出

実務者研修会を共催

関東鋲螺釘工業協同組合（平戸眞澄理事長＝平戸製作所）と東部ファスナー協同組合（望月紀人理事長＝クラウン精密工業）は6月14日、東京都荒川区の関東鋲螺釘工業協同組合会議室にて「実務者研修会」を共催。両組合より営業や製造、事務担当など実務を担う社員計33名が参加。一般社団法人EU－SHU代表の植田優哉氏を講師に、報連相の重要性やコミュニケーションスタイルの分析、参加者同士の交流時間も設けられて今後の業務に役立つ知識を習得した。

平戸理事長

望月理事長

植田講師

両組合は、関東圏におけるねじメーカー関連企業で構成される製造業の協同組合として長年の歴史を有し、またどちらも事務局を東京・日暮里に設置している事から以前より共催セミナーの開催など協力関係のもと事業充実化を推進している。

今回の共催セミナーは、関東鋲螺釘工業協同組合の組合員である浅岡善太郎氏（浅善鉄工所）と交流関係のある植田氏を講師に、管理職に昇格された者や新入社員、ビジネスマナーの再確認を行いたい者などを対象に、「報連相の目的と必要性を再認識する」、「自己の志向と行動の傾向を知る」事を目的に企画されたもの。

当日は午前10時よりスタートとなり、司会進行役は関東鋲螺釘工業協同組合の林真康事務局長。はじめに、同組合の平戸理事長より「各社で社員研修などは行われていると思いますが、新入社員研修としての活用や、過去に研修を受けた事がある方は再確認のため本日の研修会は有効であると考えています。皆様がお座りのテーブルには他社からご参加の方もいます。交流できる時間も用意していますので、同じねじ製造を担う仲間として、本日の出会いもまた活用して頂きたい」と挨拶。

植田講師の紹介がなされて、同氏は自己紹介を小声で話した後に拍手を付けた元気の良い声でもう一度繰り返し、第一印象の重要性を示唆。人間関係の構築が鍵である事を主軸に、ビジネスシーンにおける報告・連絡・相談がなぜ必要かという解説や指示を受ける時のポイントを紹介。

人の行動原理やコミュニケーションスタイルについても説明がなされて、それぞれタイプ別での傾向や注意点など午後5時30分まで詳細に述べた。また、コミュニケーションの実践編として数人1組でのグループ内で自己紹介などが行われたほか、研修会修了後にも希望者には歓談の時間が設けられて組合・企業間での交流が図られた。

参加者同士で交流の時間も設けられた

会場のようす

ねじこうば.com / ねじ工房
詳しくはWEBにて

売上高503億円超

佐賀鉄工所　第76期業績

久富勝則社長

㈱佐賀鉄工所（本社＝佐賀県佐賀市神園1－15－30。久富勝則社長）の第76期（2023年4月1日～2024年3月31日）業績は、売上高が五〇三億五，一〇〇万円（前期比9・4％増加）、経常利益六四億一，八〇〇万円（同50・5％増）、当期純利益は四四億八，七〇〇万円（同38・0％増）となった。

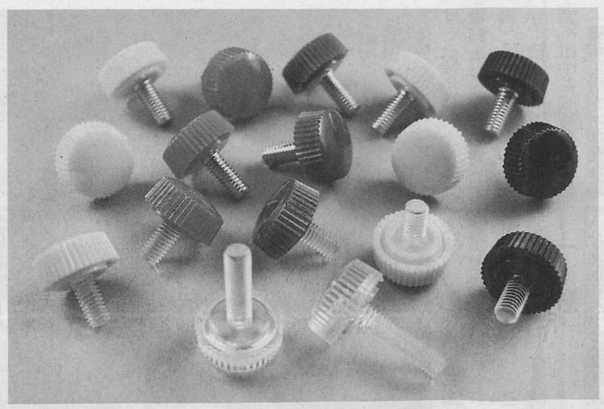
同社では、今後の更なる発展ならびに予想される市場変化への対応、働く環境整備など多角的な視点のもと、佐賀工場を唐津市へと移転する計画を進めている。

同社が推進する、永続的な成長のために次世代へと繋げる「BRIDGE PROJECT」の一環に行われたもので、敷地面積が従来比約三倍となる一一，〇〇〇㎡を取得。

2025年8月より着工が開始され、三年後の2027年4月に操業開始、佐賀工場からの生産設備類における順次移設を行ない、2030年3月に移転完了を予定している。

「ポリカ化粧ネジ」発売

樹脂材採用の新製品　大丸鋲螺製作所


ポリカ化粧ネジ

㈱大丸鋲螺製作所（本社＝大阪市東成区。細山田寛社長）ではこの度、オリジナル製品の樹脂インサート成形ファスナーにおける新アイテムとして「ポリカ化粧ネジ」の取扱いを開始。頭部材質にポリカーボネート樹脂（PC）を採用して、従来展開のナイロン化粧ネジよりも耐熱・対候性を向上させている。去る6月19日～21日に東京ビッグサイトで開催された「第36回ものづくりワールド【東京】」において出展および同製品の展示紹介も行われ、来場者より高評価を得た。

今回、新発売となる「ポリカ化粧ネジ」は、頭部材質にポリカーボネート樹脂（PC）を採用する事で、従来展開している「ナイロン化粧ネジ」よりも耐熱・対候性を向上。一例として、耐熱温度がナイロン樹脂80℃に対してポリカ樹脂は120℃といった結果を示している。

標準色は白および黒の二種類であるが、要望により他色でも柔軟に対応できる。また、ねじ部は頭部形状と同様のPC材のほか、三価（SWCH）、ステンレス（SUS－XM7）など別材質でも提供が行える。

サイズは社内規格のもとに三種類での展開を予定。現在は頭部径が14㎜のNo.2タイプについて受注生産を開始。順次、No.1（11㎜）、No.3（17㎜）とラインナップを広げていくものとしている。

先般に開催された「第36回ものづくりワールド【東京】」において出展および同製品の展示紹介も行われ、来場者より注目を集めて高評価を得ている。

カラーセラピスト 小池安雲の 色の魅力

第151章

夏と言えば、お盆ですね。先日、お世話になった方から「ご先祖様への感謝の気持ちを忘れずに。自分にご縁のあるすべてのお墓にお参りをしたほうがいいですよ」と言われたことをきっかけに四県にわたるお墓参りを始めました。まずは実家のある神奈川へ、次は母の故郷である新潟へ行ってきました。母は雪深い山の集落の生まれで、生まれ育った茅葺き屋根の家はすでにないのですが、豊かな自然はそのまま残されていました。新潟といえば米どころ、米といえば美味しい水。昔から変わらぬ冷たくて美味しい湧き水を飲んだら、身体の中が更にシャンと満たされたような気がしました。

そのような経験からもっか私が熱心に取り組んでいることは二つあり、一つがご先祖様へのお礼参り、もう一つはＡＩ＝人工知能です。魔法の杖…とまではいきませんが、マーケティングやブランディング、プロジェクト進行のアドバイスなど、あまり詳しくない分野や一人では手が回らない仕事の相談ができるＡＩは重宝しています。お墓参りとＡＩ、まったく共通点がなさそうなのに、なぜこの二つに意識が向いてしまうのか？　疑問に思ったところ、色に答えがありました。

お墓参りは、先祖代々・世代を超えたつながりの場所のシンボルです。かたやＡＩは、テクノロジー・知能・学習・ネットワークというキーワードが挙げられます。そして、それらを表す色はというと、いずれもターコイズ（青緑）なのです。ターコイズは「古くからあるものが、大切な部分を残しつつ新たな形となってつながっていく」という色です。ご先祖さまがいたおかげで私たちは今ここにいますし、過去の知恵や実績があるからこそＡＩは学習して今の私たちをサポートしてくれます。大切なのは、過去が未来を作っているけれど、それは単なる過去の焼き直しではなく、未来には新たな要素が加わり続けているという点でしょう。先に申し上げた、母が生まれ育った茅葺き屋根の家には、立派な柱があったそうです。取り壊しの際に、その柱はとある名士に引き取られて、その方が建てた家に使われているとのこと。私たちもそんな風に、時代に合わせた変化をしていきながら、大切なものをしっかりと残していきたいですね。

ここでいつものワンポイントアドバイス。ターコイズは時空を超える色なので、遠くに行くのが得意です。「故郷にお墓参りに行くつもりが、海外赴任になってしまった」なんてこともあり得るので、使い方にはご注意あれ…！